

自己の教職への適性や意欲を確認するための 「保育・教育研究」のあり方

有見 正敏*

Studies in Early Childhood and Elementary Education

Masatoshi ARIMI*

*Department of Human Education, Faculty of Human Studies, Ishinomaki Senshu University,
Ishinomaki 986-8580, Japan*

1 はじめに

石巻専修大学は、石巻圏域から女子生徒が進学しやすく地域貢献ができる学部・学科の新設などの要望が出され、2013年4月に人間学部（人間文化学科と人間教育学科）を開設した。

人間教育学科は、人間や社会について基本的な理解を基盤として、保育・教育についての専門的な知識・技能をしっかりと学び、地域に密着した問題解決型の体験学習を通して保育者や教育者に必要な人間的な資質を身に付け、地域社会の教育活動や福祉活動に貢献できる資質を身につけることを教育目標としている。

人間教育学科では、三つのモデルを設けている。一つ目は初等教育モデルで、保育や教育の基礎となる人間に関わる学問、教育の本質、幼児・児童の心理や発達、教育実習等に関わる学問、教育の本質、幼児・児童の心理や発達、教育実習等の専門科目を学ぶ。卒業後は幼稚園や小学校の教諭、教育関連施設、教育関連企業への就職を目指す。二つ目は幼児教育モデルで、初等教育モデルと同様、乳幼児を対象とした学修をする。卒業後は保育所、児童養護施設、児童相談所、幼稚園教諭などへの就職を目指す。三つ目は学校心理モデルで、初等教育モデルと同様の内容であるが、認定心理士になるための講義科目（25科目）を付加している。卒業後は小学校、児童相談所、幼児や児童の心のケアにあたるNPO法人などへの就職を目指す。

本「保育・教育研究」の講義は、2年次において保育所や学校などの現場で観察・参加を行うことで、大学で学習した内容を省察し、今後の学修

への展望を描き、自己の教職への適性や意欲を確認するために行う。観察・参加にあたっての留意事項や観点などを事前に指導するとともに、観察・参加で学んだことを確認し、今後の学習に役立てる方途に関して事後の指導を行う。

本紀要は、実践報告とその反省を生かした次年度の「保育・教育研究」のあり方について述べる。

2 到達目標と授業計画

（1）到達目標

- ①保育園、幼稚園、小学校教育の目的、指針等について理解する。
- ②現場を観察・参加し、今後の学習の展望をえがき、自己の教職への適性や意欲を確認する。

（2）授業計画（月曜日の2限目）

時	保育・教育	内容等
①	ガイダンス	・目標、評価 等
②	幼稚園・保育園教育①	・子どもを取り巻く社会と保育の現状
③	幼稚園・保育園教育②	・幼稚園と保育園の比較
④	小学校教育	・小学校教育の現状 ・石巻小学校の概要
⑤⑥ ⑦⑧	観察・参加①	・石巻小学校 ・講話
⑨	中間のまとめ①	・石巻小学校で学んだこと
⑩⑪	観察・参加②	・住吉、湊、稲井幼稚園 ・講話

*石巻専修大学人間学部人間教育学科

自己の教職への適性や意欲を確認するための「保育・教育研究」のあり方

⑫	中間のまとめ②	・幼稚園で学んだこと
⑬⑭	観察・参加②	・石巻、井内保育所 ・講話
⑮	まとめ	・「保育・教育研究」 のまとめ ・レポートについて ・今後の学習

（３）観察・参加する学校、保育所との事前打合せ

本授業の観察・参加のために、協力をいただいた小学校、幼稚園、保育所は、石巻小学校、住吉幼稚園、石巻保育所、湊幼稚園、稲井幼稚園、井内保育所である。

３年次の実習に生きる観察・参加になるために、以下の事項について事前に打ち合わせを行った。

- ①日程（観察・参加の時間帯、全体の流れ）
- ②講話の内容
- ③グループ編成
- ④観察・参加するに当たっての心得

（４）学生に対する事前指導（受講生 23 名）

①全体

- ・大学からお願いをして参観させていただいていることを忘れないこと。
- ・守秘義務を守ること。（知り得た情報は外部に漏らさない。）

①観察・参加の仕方

- ・気づいたこと、考えたこと、学んだこと等メモをとること。
- ・参観のポイントをもって観察すること。
- ・それぞれレポートにまとめること。

②マナー

- ・小学校はスーツ、幼稚園、保育所は運動ができる身軽な服装とする。
- ・笑顔や明るい挨拶を忘れないこと。

④持ち物

- ・上靴、弁当持参（保育所は給食代）
- ・メモ帳
- ・名札（ガムテープに名前を書く）

3 小学校の観察・参加

（１）小学校参観：石巻小学校

①日時 ５月 19 日（月） ５月 26 日（月）

②授業参観

- ・５校時（13：40～14：25）

③グループ編成等

- ・二日間の参観で、特別支援学級、低学年、中学年、高学年の授業を参観する。
- ・それぞれ観点を示してレポートを作成する。

④授業内容と講話

◇５月 19 日（月）

〈授 業〉

- ・１年１組：国語「あひるのあくび」
- ・１年２組：算数「いくつといくつ」
- ・２年１組：生活
「おいしくそだてわたしのやさい」
- ・３年 ～ ４年
「運動会、よさこいの練習」
- ・５年１組：国語
「ゲストティーチャーをすいせんしよう」
- ・５年２組：算数「小数のかけ算」
- ・６年１組：算数「分数のわり算」
- ・６年２組：社会「天皇中心の国づくり」
- ・特別支援１：国語
「こんなときこうおう」
- ・特別支援２：国語
「先生方にインタビューしよう」

〈講 話〉

「授業づくりについて」
～授業づくりの基礎・基本～

岡本 由紀 教諭

（導入）

- ・具体的で分かりやすい問題提示
- ・見通しをもたせる

（展開）

- ・ノートに書かせる
- ・机間指導で個々の考えを把握する
- ・評価する

（終末）

- ・まとめと次時への期待を持たせる
- ・励ましや希望の言葉を贈る

◇５月 26 日（月）

〈授 業〉

- ・１年１組：音楽「はくをかんじとろう」
- ・１年２組：道徳「ぼくのあさがお」

- ・2年1組：国語「お手紙」
- ・3年1組：音楽「楽譜を読もう」
- ・3年2組：社会
「市のさまざまな場所を調べよう」
- ・4年1・2組：総合的な学習の時間
「伝統的な衣服について調べよう」
- ・5年1組：理科「植物の発芽と成長」
- ・5年2組：外国語活動
「lesson 2 ジェスチャーをしよう」
- ・6年1・2組：国語「バラの谷」
- ・特別支援1：算数「長さ調べをしよう」
- ・特別支援2：国語
「物語の感想を発表しよう」

〈講 話〉

「特別支援教育について」

石森 知子 教諭

- ・特別支援教育とは
- ・うまくやれない、やり方がわからない子ども
- ・気になる子どもの理解
- ・共に生きる、共に学ぶ

(2) 学生のレポートから (抜粋)

①授業が始まる前に、数人の子どもが後ろの棚から道徳の教科書を皆に配っていた。子どもが一斉に殺到して怪我をしたり、授業開始が遅れたりしないように日々指導している様子が見られた。授業が開始するとすぐに担任が「『心』はどこにあるかな」という問いを投げかけた。その問いに対して「胸のところ」「心臓のところ」という答えがあった。担任は明確な答えを提示することはせず、子どもに考えさせ、その考えを聞き「なるほどね」「そうだね」と共感していた。まず子どもに考えさせ、子どもを尊重することが指導する上で大事なのだと考えさせられた。

(低学年：道徳)

②初めて習う単元の授業を参観した。先生が原本を持ってきていて、「先生が大好きなお話の一つなんだよ」と説明していた。先生が好きな話と知らせることで、初めての授業内容に大きな関心を向かわせていた。最初に先生の読み聞かせから始まり、時折簡単な質問をする。「ばくも〇〇くんと同じです」と答えていたのがとても印象的だった。台詞を男女別や指名制、又は全員で感情を込

めて読ませる。その時にも褒めることは忘れず、「鳥肌が立った」「学芸会みたい」など、上手に読めていることをバリエーション豊かに褒めていたのがすごいと思った。(低学年：国語)



③授業に入ると、学区外から通ってきている子どもの自宅の場所や地域を取り上げ、同じ市に住んでいるがその地区によって環境は違うということから授業につなげていた。子どもたちが親しみやすいところから授業をしていますがすごいと思った。子どもたちの反応は、自分から地図を見て気づいたことを発言していてとても楽しそうに授業に取り組み、自ら学ぼうという意欲がすばらしいと感じた。前の授業で学んだことを生かし、地図記号などで石巻の地形を学ぶなど、復習のようなことから出発していて、楽しそうに授業に取り組んでいた。子どもたちの授業に臨む態度で、授業の内容は良くも悪くもなるんだなと感じた。

(中学年：社会)

④三つ目に感じたことは、授業のまとめについてだ。授業の最後に、子どもたちに感想を言ってもらっていた。これは、私の今まで出会った体育の先生の取り組みにはなかったので驚いた。子どもたちは、「今日できたこと、できなかったこと、分かりずらかった部分」を素直に発表していた。教師の一方的に行う授業ではなく、双方向からのやりとりのある授業が実践されていた。教材研究や指導案の作成に大いに役立つものといえる。そして、最後に教師の声掛けに重要な一言が含まれていた。手洗い、うがいについてだ。体育としての側面と保健、健康面の両方からの教育が一体となって指導されていた。(中学年：合同体育)



④子どもたちは、体育着に着替え、校庭を走り、整列まで完了させていた。その手本を示すように先生たちも授業に準備を整えておき、子どもを待っていた。それを見て、子ども、先生方のやる気、情熱を感じた。授業が始まり、主となって進める先生が一人と、その周りの子どもを指導する先生とで役割分担をしていることが分かった。その周りの先生方も、前から見るのが二人、後ろから指導するのが一人となっていた。そうすることで、子どもたちも全方面からサポートできていると感じた。……。先生は指導する立場でもあるが、子どもたちと一緒に授業を創り上げているということだ。

（中学年：合同体育）

⑤授業は、人を推薦することが目的だった。まずみんなで教科書を声を出して読み、どのようにして推薦するか、そしてどのような順序で発表するかを頭に入れた。……。最初はグループで話し合いをしながら、徐々に慣れてきたら一人で行うかたちになった。分からない子どもには、一度前の部分に戻り、その子どもが分かるまで指導していた。子ども一人一人にきちんと目を向け、遅れている子どもだけに関わるだけでなく、クラス全体の授業を進めている先生の技は、子どもたちの意欲を引き出すとても魅力的なやり方だと感じた。また、プロジェクターを使い、今どこをやっているかを明確にし、授業に遅れを取らせない工夫もあった。

（高学年：国語）

⑦この授業は、最初から答えを求めさせるのではなく、答えを導かせる過程の式や考え方を重視し

ていた。進め方であるが、先生だけが話す授業ではなく、子どもたちも積極的に自分の意見を表現できる授業だった。まずクラスの全員に問題を出し、問題が解けたら子どもから挙手をさせ、正解だったら赤で丸を付けていた。そこまではよく見かける光景だが、丸をもらった子どもたちは自分の席に座らず、わからない子どもの側に行き、正解を確かめたり、分からない子どもに教えたりしていた。先生一人ではなく、みんなで教えられる環境になっていた。

（高学年：算数）

⑧この参観の前に、ボランティアで利府支援学校の運動会に参加したことがあるので、どのような子どもたちがいるのか、どのような授業が行われているのか興味があった。先生が子どもに話していた時に気になったことがあった。それは、“だいたい・ざっくり”など全体的におおまかな表現で説明していたことである。これまで参観してきたクラスと比べおおまかな表現ではなく、細かいところまで説明をしていたように感じる。やはり難しいことまでは理解ができないのだと感じた。この授業の目的でもある感想発表では、5W1H（いつ・どこで・誰が・何を・どのようにした）で発表するようにしていた。順番を追っていったほうが理解しやすいのだと思った。

（特別支援学級：国語）



⑨特別支援学級の授業の参観は初めてなので、とても興味があった。教室へ入ると、子どもたちは私たちのほうを見て、笑みを浮かべていた。違いはあまり感じなかったが、子どもたちはとても楽しそうに学んでいた。子どもたちが物差しの使い

方が分かって、いろいろな物を測っているときの表情は非常ににこにこしていた。楽しくない授業は私もやりたくない。子どもたちを楽しませながら学ばせるのは、いろいろと工夫しなければならない。私も先生になったら、楽しく教えたい、楽しく学ばせたい。どうやれば楽しくできるかを考え、指導案をこれからたくさん作ってきたい。

(特別支援学級：算数)

4 幼稚園の観覧・参加

(1) 幼稚園参観：住吉幼稚園、湊幼稚園 稲井幼稚園

①日時 6月9日(月)

②保育参観の時間帯と主な流れ

- ・ 11:50～14:25
- ・ 迎えの会→昼食→後片付け→休憩(遊び)
→帰りの準備→帰りの会

③グループ編成等

- ・ 住吉幼稚園 8名
- ・ 湊幼稚園 4名
- ・ 稲井幼稚園 11名

④講話

- 〈住吉幼稚園〉：赤間 彰 園長
- ◇住吉幼稚園の教育
- ◇幼稚園教諭の魅力
- 〈湊幼稚園〉：三浦 恭子 園長
- ◇湊幼稚園の教育目標
- ◇「育ての心」
- 〈稲井幼稚園〉：千葉 幸子 園長
- ◇幼稚園教育の重要性
- ◇幼稚園の先生の仕事の魅力

(2) 学生のレポートから(抜粋)

⑩幼稚園に着くとまず、先生方が笑顔で迎えてくれた。その後、子どもたちが毎朝行「体操」と言われるダンスと一緒に踊る体験をしたが、これが以外とハード。しかし、子どもは踊り終わった後もケロッとしており、子どものエネルギーに関心させられた。……。食後は、保護者が迎えに来るまで先生が紙芝居を読んだ。話を聞かない子どもに話をふったり、先生にちょっかいをかける男の子に注意したりと、紙芝居を読みながら園児一人一人を気遣いながら対応していたのすごい

と思った。保護者に引き渡す際に、今日一日の子どもの様子、家での様子はどうかなど、話をしてから保護者に引き渡していた。(4歳児中心)



⑪子どもたちの注意を引きつける先生の話し方に興味があった。お昼を食べながら先生は子どもに話しかけたりしていた。苦手なものを一口でも食べたりするよう促し、食べることができた時には、「○○ちゃん、すごいね。□□食べたから力が付いてきたね」といった声掛けをし、周りの先生たちも「○まるちゃんすごい」と一緒になって喜び、褒めていた。褒められた子どもは笑顔で得意げな表情になり、自信をもったように見えた。(5歳児中心)



⑫給食を食べているとき、子どものつぶやきや発言、先生は全て拾い上げ反応していた。給食を残したい子どもが、「残してもいいですか」と聞いたときは、「だめです」と否定せずに、「じゃあ、あとこのくらい食べようか」と言って少し食べるよう促していた。ここの幼稚園は、少人数での保

育で、被災した子どももいるため、一人一人に励ましや、慰めの言葉をかけるようにして向き合うようにしていた。また、その子どもの個性を見て、いいところを伸ばすようにしていた。保育内容によっては、担任一人ではできないときもあるため、先生同士でコミュニケーションをよくとるようにしてチームワークを大切にしていた。
(全員対象)



⑬一人の園児が、「長い針が3になったらごちそうさまをして歯を磨くんだよ」と教えてくれた。その通りの時間には、みんなで一斉にごちそうさまをして歯を磨いたり、お弁当をしまったりしていた。その間も先生方は、本当に目が後ろにも付いているのではないと思うほどよく動いていて、お弁当の包み方を教えてあげたりしていた。その時も全てやってあげるのではなく、解決までを導いてあげ、できた喜びを共有したり、褒めてあげることに徹していた。あくまでも子どもたちの自主性を重んじていることが分かった。

(4歳児中心)

⑭お昼を食べながら幼稚園で育てている野菜や花の話が出てきた。この幼稚園では、食育を目的として園庭でいちごやトマト、二十日大根など様々な野菜を育てて収穫し、幼稚園で洗って調理したり漬物にしたりして食べているらしい。こうして自分の野菜を育てて子どもは自然と触れ合ったり、食べ物を作る過程を学んだりしているのである。食べ物を作る大変さを知っている子どもたちはお弁当の野菜もきちんと食べられていた。見る、知るだけでなく体験をすることで子どもは学び、学びを生かしていくのである。こういった

学びの機会をたくさん作ってあげることが幼稚園の役割なのだったと思った。(4歳児中心)

5 保育園の観察・参加

(1) 保育園参観：石巻保育園、井内保育園

①日時 7月24日(木)

②保育参観の時間帯と主な流れ

・10:10~13:50

・迎える会→クラスごと活動→給食準備→給食→後片付け→昼寝の準備→昼寝

③グループ編成等

・石巻保育所12名 ・井内保育所11名

④講話

〈石巻保育所〉：岩渕 恭子 所長

◇保育目標

◇保育士同士の連携

〈井内保育所〉：千葉 幸子 所長

◇挑戦すること

◇「絵本」を読むことの大切さ

(2) 学生のレポートから(抜粋)

⑮幼稚園と比べ、保育所では個々の関わりが多いということだ。特に年齢の低い子どもは、発達の差が大きいのでは一人一人への関わりが重要だと感じた。保育者の褒め方がとても印象に残った。褒める時に、先生と子どもの一対一で褒めるだけでなく、先生がクラスでの活動の合間に「今日は〇〇ちゃんが初めてトイレができました。みんな拍手。」というような声掛けをしていた。みんなから褒められるという状況をつくることで、喜びが倍になり、その子ども自身の有能感を高めることができるようになると思った。また、褒めるだけ



ではなく、怒る時は怒る、やる気を出させたい時は他の子どもと比較する言い方をしたりといろいろな接し方をしていた。(2歳児中心)

⑩オムツ替えや歯磨き、自由遊びなど一日の流れの中に子どもたちが健やかな成長ができるような工夫がたくさんあった。先生方は、性格や得意なこと、苦手なことなどを十分に理解し、全部やってあげるのではなく、少し手伝ってあげて一人でできる状況をつくりあげていたのですばらしいと感じた。それだけでなく、物の取り合いも頻繁に起きる一歳児に対して、先生はお互いの子どもの気持ちを受け止め、悲しみや喜びを共有し、言葉に出して、「○○ちゃんはこれがほしかったんだね。」「○まるちゃんは泣いているよ。どうしてかな。」と上手に伝えていた。……。子どもたちの笑顔を見ると、ますます保育士になりたいという気持ちが生まれた。この気持ちを忘れずに今後の勉学に励んでいきたい。(1歳児中心)



⑪私たちの姿を見た瞬間、子どもたちは興奮し、嬉しくてしょうがない様子だった。自己紹介したらすぐに名前を覚えてくれて「先生、一緒に遊ぼう」と誘ってくれた……。外で汗をかきながら遊んでいると、一人の先生が笛を吹いた。その合図で、熱中していた子どもみんなが一斉に室内へ帰って行った。中へ入ってからは指示されなくても、うがい・手洗いをしていた。4歳児ってすごいと改めて思った。子どもたちに「先生」と呼ばれるたびに本当に自分が担任になった気持ちになった。保育者の指導や姿、子どもたちの姿をしっかりと目に焼き付けた。幼稚園教諭になりたい気持ちがより一層強くなったとともに、絶対に

なっていると決心できたとても充実した一日だった。(4歳児中心)



⑫お昼の時間からは、先生方はさらに忙しくなり、情報の共有をしている暇がないのではと思った。だが、廊下ですれ違った時や給食を取りに行った時、午睡のための布団を出している時などに、先生方は手短かにしかも的確に情報の共有を行っていた。午睡の時間には、複数の先生方で子どもを寝かしつけながら、様子を見て回り、眠った子どもの隣にまだ眠らない子どもがいたら、別の場所に布団を移し、眠った子どもの隣から遠ざけたりしていた。その時、一人の先生が子どもの連絡帳に連絡事を書いていた。こんなふうに連携や情報の共有をしていることを学ぶことができた。(2歳児中心)



⑬特に印象に残ったことは、お昼を食べ終わったあとの着替えである。いつもとは違う人たちがいるからなのか、子どもたちは興奮状態でなかなか着替えをしてくれない。その時、先生が砂時計を

取り出して、子どもに「この砂時計に負けないように着替えてね。」と声掛けをした。そうしたら、その子どもはすぐに着替えをし始めた。どの子どもにもどのように声掛けしたらきちんと行動してくれるのかを把握しているのだろう。紙芝居をしている時に、男の子どもが間違っって他の男の子どもを殴ってしまい、泣いてしまった。私たちは二人を泣き止ますこともできず困っていた。先生がそれに気づいてくれて二人の子どもを仲直りさせてくれた。私たちが手こずって解決できなかったことをすぐに解決してしまう先生方には驚きだった。

(5歳児中心)

6 成果と課題

本報告は、2年次における「保育・教育研究」のあり方はどうあればよいか、実践の成果とその反省を踏まえ、次年度に生かすことである。考察は、レポート、授業評価の2点から行う。

(1) レポートから

授業参観、保育参観は、ほとんどの学生は初めてである。観察・参加を通して学生は次のような内容でレポートにまとめている。(○の番号はレポート番号)

〈小学校〉

- ・まず子どもに考えさせ、その考えを尊重することの大切さ (①)
- ・新しい単元を学習する場合の指導の工夫 (②)
- ・既習事項を生かした授業の進め方 (③)
- ・授業のまとめでは振り返らせること (④)
- ・合同体育での指導体制 (⑤)
- ・学習形態と個への対応 (⑥)
- ・考え方を重視した授業と学び合う環境 (⑦)
- ・細かいステップと楽しい授業を考えた特別支援学級の子どもたちへの指導 (⑧・⑨)

〈幼稚園〉

- ・子どもたちへの対応と保護者へ引き渡す際の配慮 (⑩⑪)
- ・子どもたちを引きつける先生の話し方 (⑫)
- ・子どもの褒め方 (⑬)
- ・体験をすることの大切さ (⑭)

〈保育所〉

- ・子どもの褒め方 (⑮)

- ・生活指導、自由遊びにおける工夫 (⑯⑰)
- ・的確な情報の共有 (⑱)
- ・一人一人の把握とその適切な対応 (⑲)

また、「先生になったら楽しく教えたい、楽しく学ばせたい。」(⑨)、「子どもたちの笑顔を見ると、ますます保育士になりたいという気持ちが生まれた。この気持ちを忘れずに今後の勉学に励んで行きたい。」(⑯)、「保育者の指導や姿、子どもたちの姿をしっかりと目に焼き付けた。幼稚園教諭になりたい気持ちがより強くなったとともに、絶対にやってやると決心できたとても充実した一日だった。」(⑰)。

以上、学生のレポートから、次のようにまとめることができる。

- ◇教員や保育士の子どもに対する姿勢に共感し、感動している。
- ◇3年次の実習に向けての学習の視点や心構えを見いだすことができた。
- ◇自己の教職への適性や意欲を確認している。
- ◇保育園や幼稚園、小学校それぞれの目標や意義についての理解を深めている。

(2) 授業評価から

本講義に対する評価は、「授業改善アンケート調査(学生用)」と参観時における感想等から行った。

〈授業改善アンケート調査から〉(5段階)

- 5：はい 4：まあそうである
3：どちらともいえない
2：あまりそうとは言えない
1：いいえ

質 問	平 均
・意欲的に受講したか。	4.8
・考え方等得るところがあったか	4.6
・教員に熱意はあったか。	4.3
・教授法は分かりやすかったか。	3.9
・授業はよく準備されていたか。	4.5
・教員の話し方は聞き取れたか。	3.5

◇この授業で良かったこと。

- ・実際に小学校や幼稚園、保育所を参観して、

学ぶことがたくさんあった。

- ・幼稚園、保育所では子どもたちと直に接することができた。
- ・先生方のアイディアやチームワークのよさをこの目で見る事ができた。
- ・自分がこれから何をしなければならないかが分かった。

◆この授業で良くなかったところ

- ・授業参観や保育参観の観点を具体的に指導してほしかった。
- ・小学校の参観が多かった。
- ・事前の指導を徹底してほしかった。

以上の授業評価から、今後次のような改善が求められる。

◇講義内容に対する意欲や考え方等、評価が高い。

◇参観の観点等、事前指導を含め授業計画の見直しが必要である。

◇教授法や教員の話し方はやや評価が低く、今後改善が求められる。

7 今後の方向

本講義の反省と課題を踏まえ、次年度は、次の4点から自己の教職への適性や意欲を確認するための「保育・教育研究」を考えていきたい。

(1) 事前指導の充実

観察・参加に当たっては、服装や挨拶、マナー等の事前指導の徹底を図るとともに、学校や保育園の様子を映像で知らせていく。また、観察・参加する観点を具体的に指導することで意欲を喚起していく。

(2) 観察・参加の回数

今年度は小学校2回、幼稚園、保育所がそれぞれ

1回の観察・参加であった。本講義は現場での観察・参加が中心であること、学生からの要望も受け、今後は保育所、学校とも最低2回は観察・参加できるように計画していく。

(3) 大学での授業について

意欲的に授業に取り組めるように、事前・事中・事後指導の有機的な結びつきを図る。また、一方的な講義に終わることなく、学生の考えを取り入れたり、グループで考えさせたりしながら進めていく。

(4) 観察・参加する保育所、学校について

次年度は、現学生の2倍近い人数となるので、様々な面で今年度の協力校だけでは対応が難しい。そこで、観察・参加する保育所、学校を増やしながら対応していく。

【引用文献】

ロバート・フルガム（著） 池 央耿（訳）：『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』 資料1
PP 10

小堀恒男：明治・大正・昭和期宮城県小学校経営方針・教師心得集 石巻尋常高等小學校『當校教員注意事項』（明治42年制定）第11代校長 錦織玄三郎 資料2 PP 11

宮城県教育委員会：平成26年度学校教育の方針と重点特別支援教育 資料3 PP 12 PP 13

【参考文献】

文部科学省：小学校学習指導要領開設 総則編
無藤隆・神長美津子 編著：幼稚園教育の新たな展開
無藤隆：幼稚園教育要領ハンドブック
大場幸夫：保育所保育指針ハンドブック
相馬範子：保育の現状と子どもの未来

資料 1

人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ

人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていなくてはならないことを、全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のてっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場にうまっていたのである。わたしはそこで何を学んだろうか。

何でもみんなで分け合うこと。ずるをしないこと。人をぶたないこと。

使ったものはかならずもとのところに戻すこと。
ちらかしたら自分で後片づけをすること。

人のものに手を出さないこと。誰かに傷つけたら、ごめんなさい、と言うこと。

食事の前には手を洗うこと。トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。

焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にいい。

釣り合いの取れた生活をする — 毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵を描き歌い、踊り、遊び、そして、少し働くこと。

毎日かならず昼寝をすること。

おもてに出るときは車に気をつけ、手をつないで、はなればなれにならないようにすること。

不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。発砲スチロールのカップにまいた小さな種のことを忘れないように。種から芽が出て、根が伸びて、草花が育つ。どうしてそんなことが起きるのか、本当のところは誰も知らない。でも、人間だっておんなじだ。

金魚も、ハムスターも、二十日鼠も、発砲スチロールのカップにまいた小さな種さえもいつかは死ぬ。人間も死から逃れることはできない。

ディックとジェーンを主人公にした子供の本で最初に覚えた言葉を思い出そう。何よりも大切な意味をもつ言葉°「見てごらん」

『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』
ロバート・フルガム(著)・池 央耿(訳) 河合書房新社より

資料 2

明治 4 2 年（1909 年） 石巻尋常高等小學校 第 8 代校長 錦織源三郎

當校教員注意要項

- 1 手ぶらで教えよ
教案や用書等ヲ見ナガラ教ヘルナ
- 2 對話的に教えよ
講演流ヲ避ケ家庭的ニセヨ
- 3 少しずつ教えよ
根ヲ堅メルタメニモ、特ニ劣等生ノタメニハ
- 4 劣等生を愛せよ
原因ヲ調べテ適藥ヲ與ヘヨ
- 5 教育のために勤めよ
監督者其他ノ人ノタメニヤルナ
- 6 先整頓して初めよ
毎時窓戸ノ開閉、用具ノ整頓、机脚ノ排列ヲ見ヨ
- 7 躰方を先にせよ
身體ノ容儀、坐作、應對等必ラズ習慣ヲ作レ
- 8 言葉遣ヲ丁寧ニせよ
軍隊的壓抑的放漫的ヲサケ、親子的ニ平和ニ親密ニセヨ
- 9 洒掃應對を實地に教へよ
訓練上ノタメニ、洒掃整理ノトキニモ室内出入リ際ニモ
- 10 兒童と遊べ
先ヅ兒童ヲ手ニ入レヨ、兒童モ友人トシテ談話交際感化ヲ與ヘヨ
- 11 全校に目を注げ
學級ノ教員ニアラズ、學校ノ教員タルコトヲ忘ルルナ
- 12 級風を作れ
學年適當ノ級訓ヲ作り極力勵行セヨ
- 13 自己の缺點短所を知れ
感情ニ任スナ、極端ニ走ルナ
- 14 品格を保て
自己ノタメニモ、兒童ノタメニモ
- 15 舊習になずむな
讀書セヨ、研究セヨ
- 16 兒童にまけるな
根氣強ク習慣ヲ作ルマデヤレ
- 17 事務は第二にせよ
實地ノ訓育ニ全カヲ注ゲ、教授時間外ニ於テセヨ

（県庁文書 学事 8 5 9 「石巻尋常高等小學校施設状況」）

資料 3

特別支援教育

(1) 特別支援教育とは

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒が自立し、社会参加するために必要な力を培うため、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その可能性を伸ばし、生活上又は学習上の困難を改善・克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。

また、特別支援学校のみならず、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校の通常の学級に在籍する発達障害のある子どもを含めて、障害により特別な支援を必要とする子どもたちが在籍するすべての学校において実施されるものである。

さらに、障害のある子どもたちへの教育にとどまらず、多様な個人が能力を発揮しつつ、自立して共に社会に参加し、支え合う共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって、重要な意味をもっている。(特別支援教育の理念)

従来の特殊教育は、障害の種別や程度に対応して教育の場を整備し、そこできめ細かな教育を効果的に行うという視点で展開されてきた。特殊教育が果たしてきた役割や成果を踏まえつつ、一人一人の教育的ニーズへの対応を主眼とする特別支援教育への転換により、教育の対象や場が拡大された。(特殊教育から特別支援教育へ)

平成19年4月1日、特別支援教育が法的に位置付けられた改正学校教育法が施行されるに当たり、文部科学省は「特別支援教育の推進について(通知)」を出した。各学校において特別支援教育の一層の推進がなされるよう、基本的な考え方や留意事項等をまとめて示したものである。(特別支援教育の推進)

(2) 特別支援教育の対象と教育の場

①対象となる障害と教育の場

小学校・中学校		特別支援学校
通常の学級	特別支援学級	
通級による指導 言語障害 自閉症 情緒障害 弱視 難聴 学習障害(LD) 肢体不自由 注意欠陥多動性障害(ADHD) 病弱・身体虚弱	知的障害 肢体不自由 病弱・身体虚弱 弱視 難聴 言語障害 自閉症・情緒障害	視覚障害 聴覚障害 知的障害 肢体不自由 病弱・身体虚弱
軽 ←———— 障害の程度 —————→ 重		

②それぞれの場における教育の概要

通常の学級	在籍している障害のある子どもに対して、障害に配慮し、指導内容方法を工夫した学習活動を行う。幼稚園や高等学校等も同様である。
通級による指導	ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、障害の状態等に応じた特別の指導を特別な場（通級指導教室）で受ける指導形態である。自校に通級指導教室がない場合、他校通級や巡回指導も可能である。障害の多様化へ適切に対応するため、授業時数は年間35～280単位時間（LD、ADHDは10～280単位時間）と弾力的に定められている。）
特別支援学級	障害の種別ごとの少人数学級（8人まで）で、障害のある子ども一人一人に応じた教育を行う。小・中学校学習指導要領に沿った教育を基本とするが、実態に応じて、特別支援学校の学習指導要領を参考とした特別の教育課程を編成することができる。
特別支援学校	障害の程度が比較的重い子どもを対象として、専門性の高い教育をきめ細かく行う。複数の障害種を対象とした学校の設置が可能である。学級編製の標準は、単一障害が小・中学部6人、高等部8人、重複障害が3人である。幼稚園、小学校、中学校、高等学校に相当する年齢段階の教育を行うとともに、障害による困難を改善・克服するための「自立活動」という特別の指導領域がある。また、障害の状態等に応じて弾力的な教育課程が編成ができる。 通学が困難な子どものために、スクールバスの運行、寄宿舎の設置、訪問教育の実施といった体制がある。

（3）共に生きる・共に学ぶ

我が国は、障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会の実現を目指している。そのためには、障害のある人と障害のない人が互いに理解し合うことが不可欠であり、障害のある子どもや地域社会の人たちと、触れ合い共に活動する機会が大切であることから、交流及び共同学習を推進している。（共に生きる）

交流及び共同学習は、小・中学校では通常の学級と特別支援学級との活動、特別支援学校では小・中・高等学校との活動、地域の人々との活動、居住地の小・中学校との活動などがある。授業や行事等で共に活動するほか、手紙や作品等の交換といった間接的な方法もある。相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育む交流の側面と、教科等のねらいの達成を目指す共同学習の側面との一体的な取組、早期からの組織的・計画的・継続的な取組など、一層の効果的な実施が望まれる。（交流及び共同学習の推進）

宮城県では、平成17年7月に「宮城県障害児教育将来構想」を策定し、障害のある子どもと障害のない子どもが「共に学ぶ教育」の体制や環境の整備に努めている。施策の柱として「居住地校学習推進事業」がある。特別支援学校に在籍する子どもの居住地の小・中学校における交流及び共同学習を通し、その地域での人間関係の基盤づくりをし、相互に様々な刺激をし合いながら成長を促すなど、障害のある子どもの社会参加と地域における特別支援教育に関する理解の促進を図っている。（共に学ぶ）

